

Back Number

本論文は

# 世界経済評論 2022年9/10月号

(2022年9月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

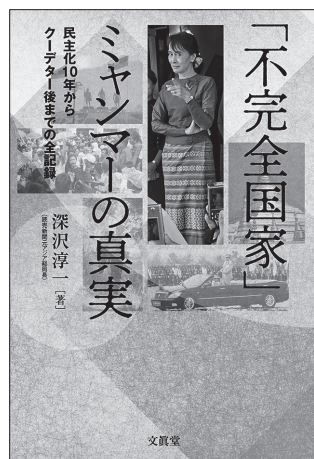
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## 「不完全国家」ミャンマーの真実

### ：民主化10年からクーデター後までの全記録

九州大学大学院経済学研究院教授 清水 一史



[著者] 深沢淳一（ふかざわ じゅんいち）

読売新聞元アジア総局長

[発行] 文眞堂，2022年1月

[判型] 四六判，460ページ

[定価] 本体2,700円＋税

本書は、「ミャンマーの民主化10年からクーデター後までの全記録」である。本書では、2011年の民政移管からクーデターまでの10年間を、テイン・セイン政権による前半の5年間とアウン・サン・スー・チー政権による後半の5年間に分け、その間の政治、経済、社会、少数民族問題、外交などをきめ細かく追いかけている。

全4部（全24章）からなり、「第1部 予期しなかった民主化の加速」では、テイン・セイン政権下の前半5年間を検証している。たとえば、軍政はどのような意図で民政体制に転換したのかなどを詳細に分析している。「第2部 試行錯誤の民主化」では、2016年3月に発足したスー・チー政権の5年間を細かく検証した。そして「第3部 軍政体制の『復活』と

『解体』をかけた軍と国民の激突」では、2021年2月のクーデターの本質とクーデターを巡る軍・市民・国際社会などの対応を多角的に分析して、ミャンマーの今後の進路を考察した。以上が10年の詳細な分析の第1部～第3部である。クーデターに至る10年を詳細に分析するとともに、クーデターが起きた原因と今後のミャンマーの展開の可能性を示している。多くの詳細な記述があるが、読み進むと引き込まれるであろう。

最後の「第4部 連邦国家への遠い道のり」では、少数民族勢力の支配地域について取材を基に明らかにし、またかつて日本が敷設した泰緬鉄道のルートを「21世紀の平和と繁栄のルート」として再整備する構想を述べている。第4部も大変興味深い。なかなか入ることのできない地域での実地調査が生かされており、他にない記述である。

著者は、読売新聞の元アジア総局長で、バンコク支局をベースに、ミャンマーのあらゆる階層の人達への数多くのヒアリングと取材を積み重ねてきた。少数民族の支配地域も何回も訪問してきた。本書には、著者自らが取材し実地検証したきわめて多くの成果が詰まっている。

本書は、現在のミャンマーの状況を理解する必読の一書である。多くの示唆を与えてくれる。是非ご一読頂きたい。また深沢氏の論稿としては、最近の「メコン川流域開発協力30年：拡大する中国、タイとCLMVの『GMS新興経済圏』」（『世界経済評論』2022年7・8月号）もある。合わせてお読み頂きたい。

軍事クーデターから約1年半が経過し、なし崩し的に現在の状況が固定化されることが危惧される。著者は、「本書で最も伝えたかったのは、ミャンマーの人々の民主化への強い渴望と、不屈の精神である」と述べている。また第3部の最後で、「ミャンマーの人達は民主化を取り戻すために命をかけて戦っている。国際社会は、あらゆる知恵と手段を総動員して、ミャンマーの民主化復帰を支えなければならない」と述べる。民主化への復帰には、ASEANや日本の役割も不可欠である。ミャンマーが再び民主化されることを強く願いたい（しみず かずし）